

生涯教育文献目録 (1999. 1～1999.12)

日本生涯教育学会

凡 例

- (1) 学会員を対象に2000年5月から7月にかけて行った生涯教育文献調査の回答をもとに、1999年に発行された文献を収録した。
- (2) 領域別の整理は執筆者自身による回答を尊重し、複数回答のものは、一番最初にあげられた領域のみを採用した。
- (3) 領域は次のとおりである。

1	生涯教育一般	7	生涯教育と学校教育 (学校改革・学校開放も含む)
1-a	生涯教育の理念	8	生涯教育と地域社会
1-b	生涯教育の歴史	9	生涯教育と企業内教育
1-c	生涯教育の内容	10	生涯教育と放送・通信教育
1-d	生涯教育の方法	11	生涯教育と関連教育施設 (生涯教育センター・社会教育 センター・公民館・文化セン ターなど諸施設論を含む)
1-e	自己(管理的)学習論	12	学習情報・相談
1-f	ライフ・サイクル論	13	人材活用
1-g	学習社会論	14	生涯教育と行政施策 (答申・報告書等も含む)
1-h	その他	15	生涯教育の推進事例
2	生涯教育と青少年教育	16	諸外国の生涯教育
3	生涯教育と成人教育 (婦人教育も含む)	17	その他
4	生涯教育と高齢者教育		
5	生涯教育と社会体育・スポーツ		
6	生涯教育と家庭教育		

- (4) 文献は各領域ごとにⅠ～Ⅶに類別した。さらに執筆者(著書、翻訳者、編者)を50音順とした。
- (5) 記載事項は次のとおりである。
 〈単行本〉①編著者名②書名③発行所名
 〈雑誌・報告書等の論文・記事〉①執筆者名②標題③所収誌名④巻・号
 ⑤発行所名⑥所収頁
- (6) 頁数の表記は次のとおりとした。
 3～5頁→3-5頁

1 生涯教育一般

I. 著書

- ・池木 清,『教育と教育行政の中で』,日本橋女学館短期大学
- ・池木 清,『教育と教育行政の中で(第2集)』,日本橋女学館短期大学
- ・瀬沼克彰,『市民が主役の生涯学習』,学文社,1-253頁
- ・瀬沼克彰,『社会再生のための生涯学習』,大明堂,1-242頁
- ・西村美東士,『癒しの生涯学習(増補版)』,学文社,1-172頁

II. 編書

- ・伊藤俊夫,『社会教育委員のための生涯学習』,全日本社会教育連合会,128頁

IV. 雑誌論文

- ・池田秀男,「日本における生涯学習の研究と教育」,『日本生涯教育学会年報』第20号,日本生涯教育学会,99-103頁
- ・伴 恒信,「ラングランとの対話」,『生涯フォーラム』,1999年3月号(No.1188), (財)社会教育協会,2-11頁
- ・山本恒夫,「生涯学習成果の評価・認証に関する研究の展開と課題」,『日本生涯教育学会年報』第20号,日本生涯教育学会,29-39頁

V. 編纂書論文

- ・伊藤俊夫,「社会教育と生涯学習」,伊藤俊夫編『社会教育委員のための生涯学習』,全日本社会教育連合会,13-22頁
- ・金子忠史,「生涯学習体系の構築に関する試論～教育制度の接続関係の日米比較～」,『青山学院大学文学部紀要』第40号,青山学院大学,65-81頁
- ・蛭田道春,「生涯教育研究と実践とのかかわり-歴史研究の側面から-」,『日本生涯教育学会年報』第20号,日本生涯教育学会,127-132頁
- ・山本恒夫,「生涯学習研究における計算研究とシミュレーション」,安田女

子大学編『安田女子大学大学院博士課程完成記念論文集』, 安田女子大学, 131-141 頁

1-a 生涯教育の理念

I. 著書

- ・今西幸藏, 「地方分権と生涯学習」, 『人間文化研究』第1号, 京都学園大学人間文化学会, 1-32 頁

V. 編纂書論文

- ・西村美東士, 「ボランティアと官民パートナーシップとしての生涯学習活動」, 社会教育協会編『生涯学習の未来像』, 社会教育協会, 97-108 頁

1-b 生涯教育の歴史

I. 著書

- ・蛭田道春, 『社会教育主事の歴史研究』, 学文社, 1-262 頁
- ・由利忠四郎, 飯塚喜市, 『秋田県の生涯学習・社会教育 50 年のあゆみ』, あきた社会教育懇話会歴史編集委員会, 秋田県教育委員会, 1-131 頁

IV. 雑誌論文

- ・前田寿紀, 「明治期における『(中央)報徳会』に関する基本的資料」, 『淑徳大学社会学部研究紀要』第33号, 淑徳大学, 257-288 頁
- ・米山光儀, 「生涯教育史についての覚書 2-戦前の義務教育政策・勤労青少年政策を中心に-」, 『年報』第10号, 慶応義塾大学教職課程センター, 49-58 頁

V. 編纂書論文

- ・蛭田道春, 「年表でみるわが国の生涯学習の歩み」, 『生涯学習情報年鑑』, 日本生涯学習総合研究所, 26-35 頁

1- c 生涯教育の内容

IV. 雑誌論文

- ・浅井経子, 「生涯学習の学習内容に関する研究の展開と課題」, 『日本生涯教育学会年報』第20号, 日本生涯教育学会, 41-52頁
- ・伊藤俊夫, 「ホスピタリティー／もてなし心」, 『向上』第1,999号, (財)修養団, 22-25頁
- ・小林 和, 「大学公開講座のあり方に関する考察－上智大学公開学習センター『人間学』関係講座受講全アンケートの分析」, 『生涯学習フォーラム』第3巻第1号, 紀尾井生涯学習研究会, 45-67頁

V. 編纂書論文

- ・浅井経子, 「生涯学習関係職員研修プログラムのあり方」, 『生涯学習関係職員研修プログラムの現状とあり方』, 兵庫県生涯学習研究開発会議, 44-52頁
- ・金子忠史, 「生涯学習カリキュラム」, 川野辺敏・山本慶裕編著『生涯学習論』, 福村出版, 90-102頁

1- d 生涯教育の方法

IV. 雑誌論文

- ・藤岡英雄, 「公開講座固定受講者の研究(2)公開講座受講者にみる学びのスタイル～ケース・スタディの結果から～」, 『徳島大学大学開放実践センター紀要』第10巻, 徳島大学大学開放実践センター, 43-66頁

1- e 自己(管理的)学習論

IV. 雑誌論文

- ・佐伯信男, 「私の『自分史』研究生活」, 『さすが&されど』11月号, ホンゴ出版

- ・堀井啓幸, 「統計・資料にみる夏季研修の現状と課題」, 『学校経営』第44巻第9号, 第一法規, 49-59頁

1-f ライフ・サイクル論

IV. 雑誌論文

- ・香川正弘, 「人生80年時代の生きがいと学習」, 『電機総研レポート』244号, 10-17頁

1-g 学習社会論

IV. 雑誌論文

- ・池田秀男, 「地域における生涯大学システムのビジョンー新しい発展段階に対応する生涯学習システムの再構築ー」, 『社会教育』第54巻640号, 全日本社会教育連合会, 81-83頁
- ・池田秀男, 「学習成果の評価の方法と基準」, 『社会教育』第54巻641号, 全日本社会教育連合会, 60-62頁
- ・山本恒夫, 「生涯学習社会とは何か」, 『日本教育』No.269, 日本教育会, 6-9頁

V. 編纂書論文

- ・山本恒夫, 「総括シンポジウム『これからの生涯学習社会をめざして』を受けて」, 第10回全国生涯学習フェスティバル実行委員会編『みんなで創ろう生涯学習の未来』, 兵庫県, 201-207頁

1-h その他

IV. 雑誌論文

- ・野村佐和子, 「市町村レベル生涯学習援助システムにおける連携の影響ー群馬県市町村の場合」, 『日本生涯教育学会論集』20, 日本生涯教育学会, 29-36頁

- ・野村佐和子,「生涯学習援助システムにおける連携の影響についての理論的検討」,『教育学系論集』第23巻第2号,筑波大学教育学系,39-48頁
- ・野村佐和子,「生涯学習社会の教育・学習システム理論構築のための予備的検討ーシステムの関係タイプとその変化についてー」,『教育学系論集』第24巻第1号,筑波大学教育学系,13-22頁
- ・古崎和代・野田豊子,「ボランティアと生涯学習ー短大生の意識調査ー」,『札幌国際大学紀要』30号,札幌国際大学,145-150頁

V. 編纂書論文

- ・伊藤俊夫,「学社融合論のゆくえ」,『全国少年自然の家連絡協議会研究紀要ー学社融合と少年自然の家Ⅲ』,全国少年自然の家連絡協議会,1-4頁
- ・伊藤俊夫,「社会教育委員の職務」,伊藤俊夫編『社会教育委員のための生涯学習』,全日本社会教育連合会,7-12頁

2 生涯教育と青少年教育

IV. 雑誌論文

- ・伊藤俊夫,「青少年の人間づくりー他者のとのかかわりの拡張ー」,『青少年問題』第46巻第1号,(財)青少年問題研究所,10-15頁
- ・伊藤俊夫,「地域が育てる子どもたち」,『社会教育』第635号,全日本社会教育連合会,8-10頁
- ・今西幸藏,「体験的参加学習によりユネスコ活動を進める高校生」,『社会教育』第54巻2月号,(財)全日本社会教育連合会,70-72頁
- ・白木賢信,「生活技術習得枠組による青少年の組織キャンプ分析ー食事の場合ー」,『日本生涯教育学会論集』20,日本生涯教育学会,133-140頁
- ・白木賢信,「生活技術の遂行状況の観点によるキャンプにおける野外炊事分析」,『野外教育研究』第3巻第1号,日本野外教育学会,37-47頁
- ・谷井淳一・井上透,「小・中学生対象のキャンプにおけるけが・病気の

- 発生状況に関する研究」、『野外教育研究』第3巻第1号，日本野外教育学会，25-36頁
- ・谷井淳一・澁谷健治，「青少年教育施設指導系職員の専門性に関する研究」、『日本生涯教育学会論集』20，日本生涯教育学会，71-78頁
 - ・谷井淳一，「多様化する不登校の回復過程-適応指導教室・保健室・自然体験事業-」、『こころの科学』，第87号，日本評論社，37-42頁
 - ・西村美東士，「若者が集まる公民館にするために」，月刊『公民館』510号，全国公民館連合会，4-9頁
 - ・Tsunenobu BAN and William Cummings，"Moral Orientations of Schoolchildren in the United States and Japan"，Comprative Education Review, Vol.43,No.1, University of Chicago Press, 64-85頁

V. 編纂書論文

- ・塚本 繁，「新たな可能性に挑む学社連携・融合」、『平成11年度学社連携・融合フロンティア事業報告書』，福島県教育委員会，65-68頁
- ・伴 恒信，「国際比較で見る日本の青少年の基本的問題」，総務庁青少年対策本部『青少年の自己決定能力を考える』，総務庁，5-14頁

VI. 調査報告

- ・金藤ふゆ子，「第5章青少年及び高齢者の意識の比較分析」、『青少年及び高齢者の異世代に対する意識調査報告書』，文部省統計数理研究所内世代間交流活動研究会，77-81頁
- ・斎藤哲瑯，「Ⅱ都市小中学生の学校外活動の状況，Ⅲ都市小中学生の農業・農村体験の状況」、『都市小中学生の農業農村体験の教育的価値に関する調査報告』，生涯体験活動振興協会，2-27頁
- ・山田 誠，「結婚観」，『「社会人予備軍のための未来開拓セミナー」事業報告書』，未来開拓セミナー実行委員会，5-13頁

3 生涯教育と成人教育（婦人教育も含む）

I. 著書

- ・井内慶次郎・山本恒夫・浅井経子, 『新社会教育法解説』, 全日本社会教育連合会, 1-127頁

IV. 雑誌論文

- ・浅井経子, 「成人の学習行動にみられる多様化と集中に関する研究(1)」, 『淑徳短期大学研究紀要』38号, 淑徳短期大学, 61-74頁
- ・岡田正彦, 「S.ブルックフィールドの成人学習論の特質－成人の学習者としての特質に着目して－」, 『日本生涯教育学会論集』20, 日本生涯教育学会, 21-27頁
- ・瀬沼克彰, 「生涯学習を発展させるために」, 『くらしと保険』335号, 生命保険文化センター, 5-7頁
- ・瀬沼克彰, 「創造型社会参加型余暇活動の高まり」, 『商工ジャーナル』2月号, 日本商工経済研究所, 39-41頁
- ・瀬沼克彰, 「民間カルチャー事業の理想と現実」, 『季刊カルチャーエイジ』37号, 全国民間カルチャー事業協議会, 3-15頁
- ・瀬沼克彰, 「民間企業が行う生涯学習」, 『社会教育』8月号, 全日本社会教育連合会, 34-37頁
- ・田中雅文, 「日本における成人教育の動向」, 『人間研究』第35号, 日本女子大学教育学科の会, 61-69頁
- ・原 義彦, 「青年男女の共同参画セミナー『彼と彼女のエボリューション－男と女のカイゾウ計画－』の成果と課題」, 『社会教育』第54巻9号, 全日本社会教育連合会, 18-21頁

V. 編纂書論文

- ・瀬沼克彰, 「国家公務員のための生涯生活設計ガイドブック」, 総務庁人事局, 1-149頁

4 生涯教育と高齢者教育

I. 著書

- ・香川正弘・佐藤隆之・伊原正躬・荻原和成, 『生きがいある長寿社会学びあう生涯学習』, ミネルヴァ書房

IV. 雑誌論文

- ・池田秀男, 「賢老長寿への鍵－生涯学習－」, 『社教情報』No.41, 全日本社会教育連合会, 38-39頁
- ・瀬沼克彰, 「生涯学習は長寿社会の基本課題」, 『商工ジャーナル』9月号, 日本商工経済研究所, 56-59頁
- ・田中雅文, 「高齢者における学習と社会参加の関係」, 『日本女子大学紀要－人間社会学部－』第9号, 日本女子大学, 313-329頁

VI. 調査報告

- ・瀬沼克彰, 「児童, 生徒の高齢化問題に関する意識調査」, 総務庁高齢社会対策室, 1-114頁

6 生涯教育と家庭教育

V. 編纂書論文

- ・伊藤俊夫, 「花束にも, ナイフにも」, 修養団編『家庭共育セミナー No.3』, (財)修養団, 46-49頁
- ・佐伯信男, 「嫁入り前の娘を都会に抛りだして」, 佐橋慶女『子ばなれ・親の本音 子の本音』, (株)海竜社, 99-100頁

7 生涯教育と学校教育 (学校改革・学校開放も含む)

I. 著書

- ・清水一彦, 『平成の大学改革を斬る』, 協同出版, 1-294頁

IV. 雑誌論文

- ・浅井経子, 「生涯学習時代に求められる『学力』とその育成」, 『日本教育』269号, 日本教育会, 14-17頁
- ・浅井経子, 「『総合的な学習の時間』と公民館」, 月刊『公民館』508号, 全日本公民館連合会, 4-8頁
- ・池木 清, 「学校現場のジェンダー汚染状況と文部省のセクシュアル・ハラスメント防止訓令」, 『女子教育研究』第26号, 日本橋女学館短期大学, 1-23頁
- ・池木 清, 「短期大学における履修指導のあり方をめぐって」, 『大学教育学会誌』第21巻第2号, 大学教育学会, 97-100頁
- ・今西幸蔵, 「地域・家庭・学校をどう繋ぐのか」, 『社会教育』第54巻5月号,
- ・瀬沼克彰, 「自主的自律的学校経営とコミュニティの育成」, 『教職研修』2月号, 教育開発研究所, 94-97頁
- ・西村美東士, 「徳島大学大学開放実践センター公開講座『暮らしさのワークショップ』報告」, 『生涯フォーラム』1189号・1190号, 社会教育協会, 2-11頁
- ・山本恒夫, 「今, なぜ学社融合なのか」, 『学校経営』第44巻7号, 第一法規出版, 6-13頁

V. 編纂書論文

- ・浅井経子, 「学社連携・融合をどうすすめたらいいか」, 『平成10年度・信教・生涯学習講座の記録』, 信濃教育会生涯学習センター, 15-38頁
- ・伊藤俊夫, 「学校教育におけるボランティア活動の位置づけ」, 神奈川県立教育センター編『教育と文化』No.44, 神奈川県立教育センター, 6-10頁
- ・伊藤俊夫, 「生涯学習と学校教育」, 伊藤俊夫編『社会教育委員のための生涯学習』, 全日本社会教育連合会, 111-116頁
- ・佐伯信男, 「新制高校卒業生の意識調査結果」, 「教育の明日を考える会」編『われら新制高校生』, かもがわ出版, 45-57頁

- ・瀬沼克彰, 「行政と大学の共同利用をめざす八王子学園都市センター」, 『生涯学習情報年鑑』99年報, 日本生涯学習総合研究所, 114-117頁
- ・瀬沼克彰, 「これからの生涯学習と学校」, 『ニュースクールセミナー報告書』No.21, 文教施設協会, 3-5頁
- ・Akenori TAKEDA, Tomone TAKAHASHI, “How to Promote Adult Education in Japanese Colleges by Using Ideas of American Colleges”, 『信州大学教育学部紀要』第96号, 信州大学教育学部, 169-175頁
- ・西村美東士, 「市民への大学開放の現状と未来」, 社会教育協会編『生涯学習の未来像』, 社会教育協会, 71-96頁
- ・原 義彦, 「大学が行う生涯学習支援の要因分析-大学教員の公開講座, 学外での講演への関わりを中心として-」, 宮崎大学生涯学習教育研究センター『生涯学習研究』第4号, 25-38頁
- ・伴 恒吉, 「動きだした脱学校化の現実-もし学校に行かなかったら」, 新井郁男編『学習社会としての学校』, 教育出版, 94-114頁
- ・堀井啓幸, 「ボランティア活動とカリキュラム」, 亀井浩明編『「生きる力」をはぐくむカリキュラム経営』, 東洋館出版, 159-179頁

VI. 調査報告

- ・瀬沼克彰, 「高等教育校内の社会人受け入れ」, 『高等教育機関における社会人受け入れの研究』, 日本生涯学習総合研究所, 11-21頁
- ・田中雅文, 「学社連携・融合事業の問題点と解決策」, 澤野由紀子『教育の役割構造変容に伴う学社連携のパラダイム展開に関する研究』, 国立教育研究所, 106-119頁
- ・山本恒夫他(鹿沼市教育委員会・筑波大学生涯学習学研究室編), 『学社融合についての調査報告書』, 鹿沼市教育委員会, 33頁

8 生涯教育と地域社会

IV. 雑誌論文

- ・池田秀男, 「NUS型の生涯学習機会の開発モデル-生涯大学システム開発

プランナー」、『生涯学習論集』第2集，安田女子大学生涯学習研究所，49-60頁

- ・瀬沼克彰，「地域イベントを長く続けるには」、『社会教育』4月号，全日本社会教育連合会，18-21頁
- ・瀬沼克彰，「地域文化の創造に果たす行政の役割」、『研修のひろば』No.90，特別区職員研修所，3-7頁
- ・田中美子，「まちづくりにおける『地域学』の可能性」、『社会教育』第52巻11月号，全日本社会教育連合会，8-12頁
- ・松井純子，「大学への道を開くために」、『安田女子大学大学院文学研究科紀要』第4集教育学専攻第4号，安田女子大学，89-110頁

V. 編纂書論文

- ・池田秀男，「生涯学習成果の評価と活用に関する研究－生涯大学システム開発プランナー」、『安田女子大学大学院博士課程完成記念論文集』，安田女子大学，89-102頁
- ・瀬沼克彰，「市民手づくりの町田市民大学」、『生涯学習情報年鑑』99年版，日本生涯学習総合研究所，86-89頁
- ・瀬沼克彰，「住民主導の市民大学の現状と課題」、『生涯学習情報年鑑』99年版，日本生涯学習総合研究所，160-165頁

VI. 調査報告

- ・伊藤俊夫，「国土・環境保全に資する学習活動」，地域交流活動研究会編『国土・環境保全に資する教育の効果を高めるためのモデル調査報告書』，地域交流活動研究会，58-64頁
- ・清水一彦，『高等教育・地域間ネットワーク及び連携システムに関する調査研究報告書』，生涯学習と地域づくり研究会（代表：今野雅裕），82頁
- ・瀬沼克彰，『地方公務員のための生涯学習の支援に関する調査』，自治省，1-176頁

9 生涯教育と企業内教育

IV. 雑誌論文

- ・蛭田道春他, 「生涯学習社会における企業の役割とキャリア形成」, 『労働法学会研究会報』No.2162, 総合労働研究所, 2-36頁

11 生涯教育と関連教育施設

(生涯教育センター・社会教育センター・公民館・文化センターなど諸施設論を含む)

IV. 雑誌論文

- ・瀬沼克彰, 「公民館再生のための提案」, 『社会教育』第54巻3月号, 全日本社会教育連合会, 30-32頁
- ・西村美東土, 「癒しの公民館-新しき伝統」, 『社会教育』第54巻3号, 全日本社会教育連合会, 34-37頁
- ・蛭田道春, 「これからの公民館の課題と方向」, 『社会教育』第54巻3月号, 全日本社会教育連合会, 22-25頁

V. 編纂書論文

- ・伊藤俊夫, 「生きる力を育む青年の家」, 全国青年の家協議会編『全国青年の家等施設代表者会議報告書』, (社) 全国青年の家協議会, 23-32頁
- ・伊藤俊夫, 「21世紀を担う子どもを育む少年自然の家の役割」, 少年自然の家東北・北海道地区協議会編『少年自然の家運営協議会報告書』, 少年自然の家東北・北海道地区協議会, 8-12頁
- ・西村美東土, 「地域・公民館活動における現状と未来」, 社会教育協会編『生涯学習の未来像』, 社会教育協会, 31-70頁
- ・原 義彦, 「公民館の利用形態の推移についての検討-人口動態に着目して-」, 宮崎大学生涯学習教育研究センター『生涯学習研究』第4号, 13-24頁

VI. 調査報告

- ・香川正弘他,『生きがい対策事業に係る講座等の組立方に関する調査研究会報告』, 社団法人全国国民年金福祉協議会, 全 67 頁
- ・瀬沼克彰,「生涯学習センターの特色ある施設の選定基準」,『生涯学習センターの全国実態調査事例集』, ボイックス, 8-10 頁
- ・瀬沼克彰,「全国の生涯学習センターの調査結果」,『生涯学習の全国実態調査』, ボイックス, 12-15 頁
- ・田中美子,「主催事業の現状」, 瀬沼克彰(研究代表者)『生涯学習センターの全国実態調査』文部省委嘱研究報告書, ボイックス, 30-38 頁

12 学習情報・相談

IV. 雑誌論文

- ・高橋利行,「マルチメディアを活用した学習のための生涯学習支援情報ネットワーク」, 日本生涯教育学会『日本生涯教育学会論集』20, 日本生涯教育学会, 55-61 頁
- ・野崎俊一,「生涯学習学の最前線に学ぶ」,『カルチャーエイジ』季刊第 36 号, 全国民間カルチャー事業協議会, 28-30 頁

13 人材活用

I. 著書

- ・宮崎冴子,『21 世紀のキャリア開発』, 仙崎武・池場望・宮崎冴子共著, 文化書房博文社, 77-138 頁(209-238 頁)

V. 編纂書論文

- ・伊藤俊夫 「社会教育とボランティア」, ボランティア学習協会編『ボランティア学習の評価の在り方についての調査研究報告書』, ボランティア学習協会, 8-12 頁

14 生涯教育と行政施策（答申・報告書等も含む）

II. 編 書

- ・池田秀男・葛原生子・郷祖京子・近藤裕子・塩谷久子・西林一江・松井純子・松元朋子,『生涯学習成果の評価と活用の促進に関するヒアリング等調査』, (池田秀男編), 安田女子大学生涯学習研究所, 1-38 頁

IV. 雑誌論文

- ・池木 清,「公立学校女性管理職進出度の都道府県ランキングとその考察」, 『女子教育研究』第 24 号, 日本橋女学館短期大学, 1-26 頁
- ・池木 清,「公立学校教員における女性の進出状況と今後の課題」, 『女子教育研究』第 25 号, 日本橋女学館短期大学, 1-30 頁
- ・瀬沼克彰,「活力ある自治体と高等教育機関の生涯学習事業」, 『季刊スコレー』No.97, 全国余暇行政研究協議会, 12-18 頁
- ・瀬沼克彰,「生涯学習社会への新しい対応」, 『市政』9月号, 全国市長会, 10-15 頁
- ・野崎嘉男,「平成 10 年度の留萌支庁管内, 宗谷支庁管内市町村教育委員会主催の『絵画講座』に関する調査」, 『北海道女子大学短期大学部研究紀要』第 38 号, 北海道女子大学短期大学部, 67-80 頁
- ・堀井啓幸,「統計・資料にみる『学校図書館』の活性化施策の現状とその課題」, 『学校経営』第 44 巻第 12 号, 第一法規, 38-48 頁
- ・山本恒夫,「これからの社会教育行政の方向-生涯学習審議会答申の目指すもの-」, 『社教情報』No.40, 全日本社会教育連合会, 2-7 頁
- ・山本恒夫,「全国子どもプランへの地域対応-公民館にとっての課題-」, 月刊『公民館』507号, 全国公民館連合会, 4-8 頁

VI. 調査報告

- ・池田秀男・葛原生子・山川肖美・近藤裕子・塩谷久子・松井純子,「生涯学習成果の評価と活用の促進に関する研究開発」, 『平成 10 年度文部省委嘱生涯学習活動の促進に関する研究開発事業報告書』, 広島県立生涯

学習センター, 1-71 頁

- 松井純子, 「学習成果の評価と活用の促進に関する研究開発の動向－海外の開発動向－」, 『生涯学習成果の評価と活用の促進に関する研究開発』, 広島県立生涯学習センター, 19-24 頁

16 諸外国の生涯教育

IV. 雑誌論文

- 池本美香, 「プレイセンター 50 年の歩みと今後の可能性」, 『日本ニュージーランド学会誌』第 6 巻, 日本ニュージーランド学会, 2-15 頁
- 岡嵯八重子, 「イギリスにおける『生涯学習社会』に向けての動向」, 『東海大学福岡短期大学紀要』1 号, 東海大学福岡短期大学, 39-50 頁
- 香川正弘他, 「教育から見たイギリスと日本－銃としてのイギリス教育」, 『ソフィア』第 48 巻第 3 号, 上智大学, 237-267 頁
- 金子忠史, 「アメリカにおける AO 入試の現状と課題」, 月刊『高校教育』, 学事出版
- 金子忠史, 「米国におけるアーティキュレーション」, IDE『現代の高等教育』No.408, 民主教育協会, 54-58 頁
- 堀井啓幸, 「教員養成論の再構成の視点－イギリスの教員養成を手がかりにして－」, 『帝京大学短期大学紀要』第 19 号, 117-126 頁

V. 編纂書論文

- 野崎俊一, 「スウェーデンの学習サークルと受講生の意識調査」, 『文教大学教育研究所紀要』第 8 号, 文教大学教育研究所, 103-110 頁

VI. 調査報告

- 金子忠史, 『アカデミックな教科と職業教科との統合に関する基礎研究』(科学研究費基盤研究(C)(2)), 青山学院大学, 1-75 頁

17 そ の 他

I. 著 書

- ・根木 昭, 『我が国の文化政策の構造』(博士(法学)論文), 長岡技術科学大学・根木昭, 1-335頁
- ・根木 昭(根木 修・垣内恵美子・大塚利昭), 『田園の発見とその再生—「環境文化」の創造に向けて—』, 晃洋書房, 1-250頁

IV. 雑誌論文

- ・Akenori TAKEDA・Robert GADDIS・Carol A.MARCHEL, “Action Research:A Tool to Improve Counseling and Teaching”, 『カウンセリング研究』第32巻3号, 日本カウンセリング学会, 292-300頁
- ・田中雅文・樋口 健, 「生涯学習を支援する『NPO』の生態」, 『日本生涯教育学会論集』20, 日本生涯教育学会, 87-98頁
- ・根木 昭(垣内恵美子), 「戦後の国会審議と法制に見る『文化』の意味とその変遷」, 『長岡技術科学大学研究報告』第20号, 長岡技術科学大学, 95-99頁
- ・根木 昭(垣内恵美子), 「地方都市における文化を核とした地域活性化の試み」, 『長岡技術科学大学研究報告』第20号, 長岡技術科学大学, 87-94頁
- ・根木 昭, 「田園の発見とその再生」, 『けんせつほくりく』No.353, 北陸建設弘済会, 15-16頁

V. 編纂書論文

- ・根木 昭(Archie Kleingartner・Kate Winegar, 姫野 翠・枝川明敬・垣内恵美子・大和 滋), ‘Chap.4 Case Study:Opera’, “Comparing Cultural Policy”, AltaMila (米国), 207-226頁

VI. 調査報告

- ・釧路短期大学生涯教育センター, 『釧路短期大学生涯教育センター 10周

年記念誌』，釧路短期大学生涯教育センター，標茶町教育委員会，総頁数（34頁）

- 根木 昭，「現代日本の文化政策をめぐって」，文部省科学研究費報告書『文化政策が文化的生産に果たす機能に関する比較社会論的・社会科学的研究』，13－29頁
- 根木 昭，「市町村の文化政策の意義」，『平成10年度新潟県アートプロデュース講座実施報告書』，（財）新潟県文化振興財団，69－76頁